

定期報告書(第二面)の記入例

北関東ブロック昇降機等検査協議会

所有者又は管理者に確認し記入する。不明の場合は空欄。

同一建物内の対象昇降機1台ごとに作成する。

確認済証・検査済証の記載内容を記入する。
・該当する交付先に「レ」マークをチェック
・指定確認機関の場合は、()内にその機関名を記入。

昇降機の状況等 (第二面) 平成11年4月までに確認済証が交付されている場合は「建築主事」をチェック。それ以降は記載事項を確認する。

【1. 昇降機に係る確認済証交付年月日等】
 【イ. 確認済証交付年月日】 昭和・平成 年 月 日 第 号
 【ロ. 確認済証交付者】 建築主事 指定確認検査機関 ()
 【ハ. 検査済証交付年月日】 昭和・平成 年 月 日 第 号
 【ニ. 検査済証交付者】 建築主事 指定確認検査機関 ()

【2. 検査日等】**再検査時に記入す** 検査が複数日に亘った場合は、最終日を記入する。
 【イ. 今回の検査】 平成 年 月 日 実施
 【ロ. 前回の検査】 実施 (平成 年 月 日 報告) 未実施 初回検査の場合は、未実施選択
 【ハ. 前回の検査に関する書類の写し】 有 無 特に保守会社変更時には、所有者等への書類の確認を励行

所有者又は管理者に確認し記入する。
 【3. 検査者】 (代表となる検査者) (番号) 検査者が複数で実施の場合、代表者の番号を記入。

【イ. 資格等】 () 建築士 () 登録第 号
 建築基準適合判定資格者 第 号
 登録昇降機検査資格者講習を修了した者 第 号
 【ロ. 氏名のフリガナ】
 【ハ. 氏名】
 【ニ. 勤務先】

【二】～【ト】までは検査者の所属先に応じ、法人に所属の場合は法人名・所属先を、建築事務所所属する場合は事務所登録番号、法人所属ではない個人は個人の住所を記入。

【ホ. 郵便番号】 ()
 【ヘ. 所在地】
 【ト. 電話番号】
 (その他の検査者) (番号) 検査者が2名以上の場合に記入する。
 【イ. 資格等】 () 建築士 () 登録第 号
 建築基準適合判定資格者 第 号
 登録昇降機検査資格者講習を修了した者 第 号
 【ロ. 氏名のフリガナ】
 【ハ. 氏名】
 【ニ. 勤務先】 法人勤務者の場合には、その勤務先を記入する。
 () 建築士事務所 () 知事登録第 号
 【ホ. 郵便番号】
 【ヘ. 所在地】
 【ト. 電話番号】 建築士の検査で、建築事務所に勤務している場合に記入。

【4. 保守業者】
 【イ. 名称】 「3. 【ニ. 勤務先】」と異なる場合に記入する。
 【ロ. 郵便番号】 ・個人の場合は、氏名、住所を各々「名称」、「所在地」に記入する。
 【ハ. 所在地】
 【ニ. 電話番号】 法第八十八条第一項に該当する建物に設けられた観光用の昇降機をさす。

【5. 昇降機の概要】 (番号) (可変速の場合は、全ての速度を記入すること。例 (60.90))
 【イ. 種類】 建築設備 工作物
 【ロ. 種別】 エレベーター (斜行) エスカレーター 小荷物専用
 【ハ. 駆動方式】 ロープ式 油圧式 その他 ()
 【ニ. 用途等】 乗用 (人荷共用 非常用) 寝台用 自動車運搬用 荷物用
 【ホ. 機械室の有無】 有 無
 【ヘ. 仕様】 (電動機の定格容量) (定格速度) (積載量) (定員) (階段の幅) (勾配)
 (kW) (n/min) (kg) (人) (m) (度)
 【ト. 停止階】 階 (停止階床数)
 【チ. 製造者名】 制御リニユアルの場合は、前製造者と改造業者名を記入する
 エレベーター限定の記載欄
 傾斜設置のエレベーターもここに載する。
 停止する階を全て記入すること。例・・1.3.5階(停止階床数 3)

【6. 検査の状況】
 【イ. 指摘の内容】 要是正の指摘あり (既存不適格) 定期検査業務基準書40ページを参照。
 要重点点検の指摘あり 指摘なし
 【ロ. 指摘の概要】 「要是正」及び「要重点点検」の項目番号と、検査項目を記載する。
 【ハ. 改善予定の有無】 有 (平成 年 月に改善予定) 「要是正」及び「要重点点検」に指摘がある場合には、「有」を選択。その際、改善の予定が決まっている場合には、併せて年月を記入する。
 無

【7. 不具合の発生状況】
 【イ. 不具合】 有 無
 【ロ. 不具合の記録】 有 無
 【ハ. 改善の状況】 実施済 改善予定 (平成 年 月に改善予定) 予定なし

【8. 備考】 【6. 検査の状況】を踏まえ、該当する「有」「無」、「年月」等に漏れなくチェック、記入をすること。
 協議会No. 整理番号 検査会社等の独自整理番号記入欄